

## 三校合同課題研究発表会 報告

◇期 日 令和3年12月19日(日)

◇場 所 高岡文化ホール

◇参加者 富山・高岡・富山中部高校探究科学科1・2年生、各校教職員、  
課題研究指導関係者

12月19日(日)に、高岡文化ホールにて、三校合同課題研究発表会が行われた。新型コロナウイルス感染症対策のため、例年と異なり一般人の参加は控えてもらい、中部、富山、高岡3校の生徒と教師のみの参加となった。2年生は約1年間の研究の発表とあって、緊張感が漂っていた。

開会式の後の各校の代表発表は、7分間という短い時間ながらも簡潔かつ情報量の多い発表だった。富山高校はストローに人が乗っても崩れないようにするためにストローをどのような構造で組み立てるとより強固になるかという研究について、中部高校は昨年の研究を発展させ、ピスマスの色を制御する研究について発表した。高岡高校は家庭分野の発表をし、文系・理系を問わず思わず聞き入ってしまう内容であった。また、質疑応答の時間には、どの発表に対しても活発に質問が出され、議論のレベルの高さを感じさせられた。

ポスターセッションでは、2つのコアタイムに分かれ、各班が研究発表を行った。観覧者の人数に差はあるものの、どの班においても盛んに質疑応答が交わされ、盛り上がりを見せていた。

約1年間の研究を短時間で相手に伝えるのはそう簡単なことではない。しかし、どの班も整理された見やすいポスターを準備し、分かりやすい説明を心がけるだけでなく、フリップや動画、実物を用いて、少しでも聞き手の興味関心を引こうと工夫を凝らしていた。観覧者との質疑には大きな意義があった。普段自分たちで研究するだけでは気づくことのできない、向き合っていくべき課題や新たな視点に気づききっかけになった。

閉会式では各校からの代表者が、研究が時事的内容に触れていることや、この発表の経験がこれから社会に出てからも生きてくること、今の自分たちがこうして課題研究発表ができる状況に感謝するべきであることなどの感想が述べられた。最後に、富山大学の笹木教授から、研究するときは熱意とモチベーションが最も大切であり、社会では何のための研究かという目的が問われるとの講評があった。

今回の三校合同課題研究は、探究心を高め、さらなる研究意欲を得ることができた貴重な体験となった。この経験を今後の探究活動や学校生活に生かすよう努力していきたい。  
(27H 竹田 記)

